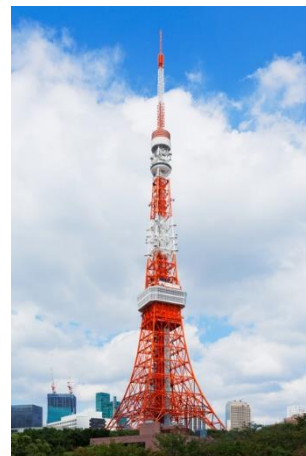
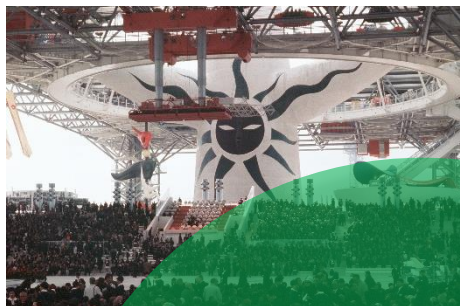


平成26年度 文部科学省 成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

介護分野の外国人就業者の雇用を促進する養成プログラムの開発と実施

外国人介護福祉士候補者向け

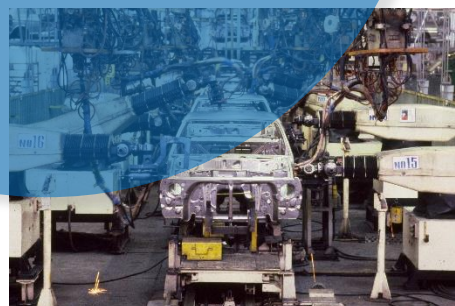
日本の高齢者を知る教育プログラム



現代日本の トピック10



団塊世代の ライフスタイル10



学校法人宮崎総合学院

目 次

本書は、まず、「Ⅰ 現代日本のトピック10」で、戦後の日本が世界における現在の地位を築き上げる過程で起こった象徴的な出来事を10項に整理して概説します。そして「Ⅱ 団塊世代のライフスタイル10」で、その中心的な存在である団塊世代が生きた時代をその風俗・習慣に焦点を当てて紹介します。

Ⅰ 現代日本のトピック10

topic 01	東京オリンピック	2
topic 02	高度経済成長	3
topic 03	主要国ニッポン	4
topic 04	国際化の加速	5
topic 05	石油危機(オイルショック)	6
topic 06	ジャパン・アズ・ナンバーワン	7
topic 07	急激な円高	8
topic 08	バブル経済	9
topic 09	天皇崩御	10
topic 10	クール・ジャパン	11

Ⅱ 団塊世代のライフスタイル10

topic 01	ビートルズ	12
topic 02	ミニスカート	13
topic 03	ジーンズ	14
topic 04	自動車	15
topic 05	ニューファミリー	16
topic 06	小説&コミック	17
topic 07	ファーストフード&コンビニ	18
topic 08	大衆消費社会	19
topic 09	趣味と生きがい	20
topic 10	定年後勤続	21

東京オリンピックは、日本が平和で豊かな国になったことを、世界の人々に見てもらうイベントでした。また、日本が経済をさらに成長させていく力を感じさせる出来事でした。同じ頃に完成した東京タワー・高速道路・新幹線なども、その現れです。

聖火、アジアに初めて



1964年(昭和39年*)
10月10日は、**東京オリンピック**の開会式の日です。ギリシャを出発した聖火(the Olympic Torch)が、西アジア、東南アジアを

通って日本に着き、聖火台に火が移されました。オリンピックは、スポーツを通して平和を目指すイベントです。世界中から集まった選手たちがフェアプレーの精神をもって競技を行いました。日本は、体操・柔道・レスリング・ボクシング・重量挙げ(ウェイトリフティング)・バレーボールなどで金メダルを取ることができました。このような日本人選手の活躍は、当時を生きた人々の大きな力になりました。そして、2020年に2回目の東京オリンピック開催がすでに決まっています。

【註】日本では、西暦と共に**元号**という独自の^{こよみ}暦も使われています。明治時代からは、一代の天皇に対して一つの元号が定められ、今日まで**明治・大正・昭和・平成**と続いています。特に昭和は64年間あります。例えば、東京タワーが完成した1958年は昭和33年、東京オリンピックが行われた1964年は昭和39年です。

関連事項

■ 東京タワー

1958年、テレビやラジオなどの電波を送る**東京タワー**が完成しました。高さは333m、当時の世界で最も高い鉄塔の一つでした。全国から見物客が訪れ、展望台は人々にぎわいました。高さが2倍近い東京スカイツリーが完成した今日も、東京タワーは日本のシンボルです。



■ 高速道路

1962年、東京に**高速道路**が開通しました。地面より高い所を走る自動車だけの道路です。空をまっしぐらにつきぬける力強い風景に、当時の人々は日本の未来都市を感じました。



■ 新幹線

1964年、**新幹線**が完成しました。最高速度200km/hで走る高速鉄道です。安全性も非常に優れており、「夢の超特急」と呼ばれました。現在は285km/hで運転しています。駅に着く時間の正確さなども世界から高い評価を受けてきました。



1960年、政府は、給料を10年で2倍にすると発表しました。それは、経済を短い間で成長させることです。これを、高度経済成長と言います。会社員の給料は毎年上がり、生活も豊かになりました。そして、多くの人々が西洋のライフスタイルを取り入れるようになった時代でもありました。

GNP世界第2位と生活様式の変化



東京オリンピックは、道路・鉄道・住宅・電気など、多くのビジネスを成長さ

せました。そうして豊かになった人々が新しい商品を買うことで、新しいビジネスが成長します。日本の経済は順調に伸び、1968年に**GNPが世界第2位**になりました。その2年後（1970年）に日本万国博覧会が開かれ、より高い品質を目指すという目標に向かいます。

そして、**高度経済成長**が進む中、日本人の**生活様式**は大きく変り始めます。ダイニングキッチンを取り入れるなど、日本式と西洋式の混ざったライフスタイルが一般の人の間にも広がりました。様々な電気製品も買えるようになり、一般家庭ではテレビ・洗濯機・冷蔵庫をそろえることが目標になりました。この3つの電気製品を当時、「**三種の神器**」と言いました。

こうして、日本は経済力の大きな国に成長します。

【註】**三種の神器**は本来、日本神話における3種の宝物です。電気製品は当時、それにたとえられるほど貴重なものと考えられました。その他、優れた道具や製品などが3種あると「三種の神器」と呼ばれることがあり、一般に広く使われる表現です。

関連事項

■ 団地

高度経済成長の頃、**団地**と呼ばれる集合住宅が建設されるようになりました。それまでの建物は、一般に木で造られていました。しかし、団地は、鉄とコンクリートで出来ています。ダイニングキッチンもあり、給料が中間程度の人々に人気でした。



■ 新型洗濯機

1960年代、**電気洗濯機に新しい機能**が付くようになりました。水をしぼる方式です。それまでは、2つのローラーの間に洗濯物をはさみ、ローラーを手動で力いっぱい回転させるものでした。新しいものは、強い力も必要なく、非常に簡単になりました。



■ 1万円紙幣

1958年、**1万円の紙のお金**が発行されました。大学を卒業した人の最初の給料が1万3500円程度の頃で、人々は驚きました。しかし、高度経済成長によって生活が豊かになると、誰もが持てるようになりました。



1968年、日本の経済の力が当時の西ドイツを追い越し、世界第2位になりました。工業製品などの輸出が増えたからです。その後も成長は続き、日本は、1975年の第1回先進国首脳会議への参加によって正式に国際社会の舞台で役割を得たと言えます。

先進国首脳会議に参加



世界第2位の経済力を持つようになった日本は、世界に与える影響も

大きくなりました。例えば、1973年、アラブ諸国で戦争が始まり、^{オイルショック}石油危機が起こります。このような問題について、日本も解決のために尽力する必要が生じました。そして、自国の成長だけでなく、他国の成長にも協力し、国際社会に貢献する役割がこれまで以上に求められるようになりました。

そこで、1975年、フランス・アメリカ・イギリス・西ドイツ・イタリアの代表者が集まる第1回**先進国首脳会議**（通称「ランブイエ・サミット」）に参加します。国際的な問題を話し合い、世界平和を守ることが目的です。そして、1979年6月、この会議が日本で初めて開かれました。**第5回先進国首脳会議**（通称「東京サミット」）*です。

【註】**第5回先進国首脳会議（東京サミット）**は1979年6月28・29日、東京都港区赤坂の迎賓館で開かれました。参加国は、日本の他、フランス・アメリカ・イギリス・西ドイツ・イタリア・カナダ・ECでした。そこでは、イランのイスラム革命を受け、特に石油問題が中心議題になりました。

関連事項

■ 小型電卓

1969年、シャープが世界で初めて小型電卓を発売しました（価格は約10万円）。その3年後にはカシオがさらに小型化、低価格化を行い、パーソナルユースの電卓を発売しました（価格は約1万3000円）。日本が家庭用の電子技術で世界のトップレベルに達した時代です。



■ クォーツ腕時計

1969年、セイコーが水晶と電気で動く**クォーツ腕時計**を発売しました。時計は機械によって動くという考え方を変えたのです。時刻が非常に正確です。発売当初は高価でしたが、やがて誰もが買える商品が発売され、世界中に広まりました。



■ 低公害自動車

自動車のエンジンから出る排気ガスに、環境を汚すものが入っています。それを減らすため、1970年、アメリカが新しい基準を決めました。守ることが難しい内容です。しかし、あきらめずに取り組んだのがホンダでした。1992年、世界で最初にその基準を達成しました。



1970年代に入り、日本は、世界との交流がさらに深まります。それに伴い、大阪府で日本万国博覧会、北海道で冬季オリンピック、沖縄県で国際海洋博覧会を開催し、千葉県で新東京国際空港を開港します。これにより、東京だけでなく、日本の他の都市も世界に知られるようになりました。

大阪万国博覧会



1970年、アジアで最初の万国博覧会が大阪府で開かれました。**日本万国博覧会**です。一般に、**大阪万博**とも呼ばれました。

ASEANから、インドネシア・カンボジア・シンガポール・タイ・フィリピン・ベトナム・マレーシア・ビルマ(現ミャンマー)・ラオスに参加しました。その他、アジア・アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・オセアニアなど、世界から77ヶ国が集まりました。

この万国博覧会は、人類が豊かな生活を送っても地球の環境を守れるよう、「人類の進歩と調和」がテーマでした。参加国は各々、自国の文化を見せてくれました。開催期間は6ヶ月、来訪客は6422万人で、万博の歴史で最も多い集客を記録しました。

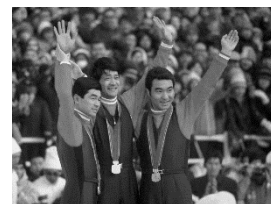
日本は、戦後に高度経済成長を遂げてアメリカに次ぐ経済大国になった自国を象徴するイベントとして、そして、東京オリンピック（1964年）以来の国家プロジェクトとして、この万博を開催しました。

その後、万博が行われた場所は公園になり、誰もが利用できるようになっています。

関連事項

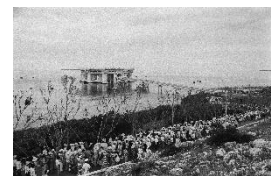
札幌オリンピック

1972年、北海道の札幌市を中心に、アジアで最初の**冬季オリンピック**が開かれました。スキージャンプ70m級で金・銀・銅のメダルを日本が取り、マスコミから「日の丸飛行隊」と呼ばれました。その後、1998年、長野県でも冬季オリンピックが開かれました。



沖縄国際海洋博覧会

1975年、沖縄県で**沖縄国際海洋博覧会**が開かれました。35ヶ国が集まった海の万国博覧会で、「海——その望ましい未来」がテーマです。日本は世界で初めて、海に浮かぶ島「アクアポリス」を創り、未来都市のイメージを表現しました。



新東京国際空港

1978年、千葉県に**新東京国際空港**が開港しました。東京都にあった東京国際空港(羽田空港)に加え、世界とつながる路線が増えました。これにより、海外との往来が便利になりました。新東京国際空港は現在、「成田国際空港」に改称されています。



日本は、自国が消費する石油のほとんどを海外から輸入しています。そのため、石油の価格が急激に上がると、日本社会にショックをもたらします。このようなことから、エネルギーの節約は、日本人にとって、日常生活でも企業活動でも、大きな課題になっています。

高度経済成長の終り



1973年、アラブの国々で戦争が始まり、石油価格が上がり続けました。これを、**石油危機**（オイル

ショック）と言います。石油を輸入にたよる日本は混乱しました。石油は、大切なエネルギー源ですから、価格が上がっても買わないわけにいきません。しかも、この^{オイルショック}石油危機により、他の物の価格も上がり始めました。また、トイレットペーパーや洗剤が不足するという誤った情報も流れました*。そのため、急いで買いだめする人が増え、日本中がパニックになりました。そこで、政府は、エネルギーの節約を国民によびかけて混乱を収め、危機を乗り越えました。

この^{オイルショック}石油危機と共に**高度経済成長は終り**、経済が少しずつ伸びる安定した成長の時代に入ります。

【注】1973年、産油国が石油価格を70%上げると決定したため、当時の通産大臣が「紙節約のよびかけ」を発表しました。このため、「紙がなくなる」とのうわさが流れ始め、ある大阪の店では、300人近い主婦の列ができ、2時間で500個のトイレットペーパーが売り切れました。その様子を聞き付けた新聞社が「あっという間に値段は二倍」と記事に書き、騒ぎになりました。

関連事項

■ 省エネルギー

石油不足を乗り切るため、人々はエネルギーを節約するようになりました。それが**省エネルギー**です。日本中が取り組みました。例えば、広告目的のネオンをやめ、安全に必要な明かりを除き、夜は早い時間に電気を消しました。



■ 東南アジア航路

アラブで船に積まれた石油は、東南アジアの海を通過して日本に運ばれます。この**東南アジア航路**は、特にマラッカ海峡を通過する距離が短く済むため、多くの船が利用しています。大型船も通れるロンボク海峡などと共に、大切な航路の一つです。



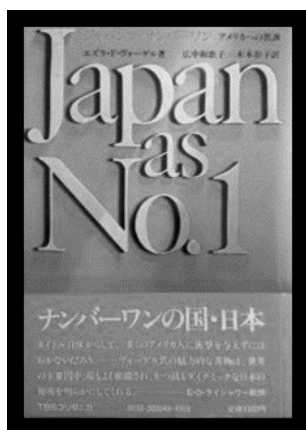
■ オートメーション 仕事の自動化

オイルショックがきっかけの一つになり、工場作業や事務のオートメーション**自動化**が進みました。その後、仕事の場所にコンピューターやロボットが次々に導入されるようになりました。



1979年、アメリカの社会学者エズラ・ヴォーゲル(Ezra Vogel) が『ジャパン・アズ・ナンバーワン』という本を出版し、ベストセラーになりました。オイルショックを乗り切った日本が再び元気を取り戻したのです。そして、西洋になかった新しい文化を輸出できるようになりました。

量から質の時代へ



1970年代半ば頃、日本の経済は、**高度成長から安定成長**に変わりました。成長率を抑え、安定した経済を大切にしました。そこで、「品質のよい製品を安く売る」という考

え方を改め、高い付加価値を持つ製品の開発を目指しました。特に新しいテクノロジーに力を入れたため、日本は「ハイテクの国」というイメージも創られました。

また、変化の激しい時代でしたが、**日本的経営スタイル**は、出来る限り保持されました。それは、① 一つの会社で定年まで雇用され続ける(終身雇用)、② 勤続年数や年齢に応じて役職や賃金が上昇する(年功序列)、③ 企業の実態に合った労使交渉が行われる(労働組合)というものです。このような仕組みが、職場のチームワークを支え、個人の向上心も伸ばしました。そして、この時代は雇用も安定し、失業率は2%台です。

このように、当時の日本は、経済の安定が社会の安定をもたらし、人々の競争が斬新で画期的な発想を生み、**量より質が充実した時代**にありました。

関連事項

VHS式ビデオテープ・レコーダー

1976年、日本ビクター(現在「JVCケンウッド」)がカセット式の**VHS式ビデオテープ・レコーダー**を発売しました。映画を家で観られる他、テレビ番組を録画することで放送時間と別の時間帯に観られるようになりました。人々の自由が広がる新しい文化でした。



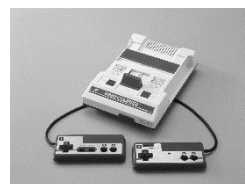
ウォークマン

1979年、ソニーが、ポケットに入るほど小さく、音質もよい音楽プレーヤー「**ウォークマン**」を発売しました。これにより、音楽はコンサートホールか家で聴くものという習慣が変わり、音楽はいつでもどこでも聴けるものという新しい文化を世界に広めました。



ファミコン

1983年、任天堂から家庭用ゲーム機「**ファミリーコンピュータ**」(略称「**ファミコン**」)が発売されました。これにより、それまでゲームはゲームセンターに行っていたものが、家で自由に遊べるようになりました。



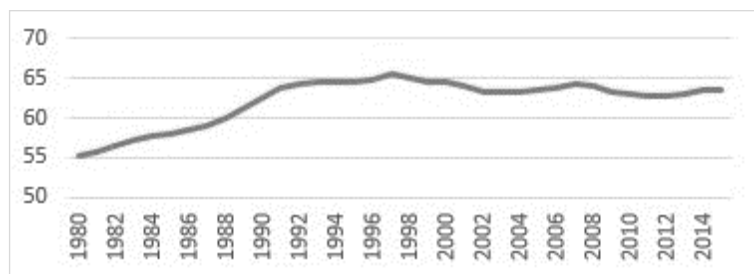
1980年代、日本の経済は飛ぶような勢いで成長しました。しかし、世界の国は景気のよい国と悪い国に分れてしまいました。経済を原因とする争いが起りかねません。そこで、平和を守るための話し合いが行われ、そこで決まった対応策が「円高」でした。

アメリカの焦りとプラザ合意



日本は、^{オイルショック}石油危機から立ち直り、輸出が増え続けました。アメリカに対する貿易黒字も増えてま

したが、これはアメリカの貿易赤字が増えたことを意味します。そこで、世界経済のバランスをよくするため、1985年、主要国の代表が集まって話し合いを行いました。その結果、**日本の円を高くする**ことが決まりました。この会議は、ニューヨークのプラザホテルで行われたため、**プラザ合意**と呼ばれます。これにより、1ドルと交換できる円の金額が変わり、1985年に1ドル240円であったのが、1988年に130円になりました。例えば、輸出した商品の売上として1ドルを得ると、それまで240円でしたが、**円高**によって130円しか受け取れません。これは、ドルで取引を行う日本にとって大きな苦しみになる出来事でした。



日本の失業率の推移（1980～2014）

関連事項

■ 企業の海外移転

1980年代の終りになると、円高によって輸出が不利になった**企業は、工場を海外に移す**ようになります。特に自動車メーカーが海外に移ったことは大きな問題になりました。様々な部品を別々の企業が製造するため、多くの企業が共に海外に進出しました。



■ 失業率上昇

円高により、日本国内の**失業率が上昇**しました（左下グラフ参照）。輸出が伸びないことで売上が落ち、社員数を減らす企業が増えました。また、多くの企業が海外に移ったため、日本国内で働ける所が少なくなったことも原因の一つです。

■ 民営化

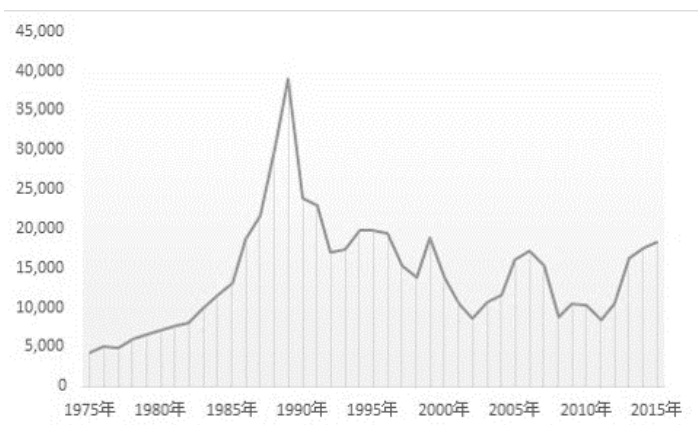
1980年代、国が行っていた仕事の一部を一般企業と同様の仕組にしました。これを**民営化**と言います。1985年に電話や通信を担う日本電信電話公社、1987年に国有鉄道が民営化しました。海外の先進国と同様のルールで運用するためです。



1980年代の後半から1990年代の初めにかけて、日本はバブル経済の時代でした。これまで経験したことのない速さで財産が増え、多くの人が豊かさを楽しみました。しかし、ひたむきに働くことの大切さを学んだ反省するべき時代でもあります。

円高不況の反動

円高を乗り切った日本は、景気が非常によくなり、土地や株などの価格が急上昇しました。



日経平均株価の推移（1970～2015、単位：円）

これにより、そのような財産を持つ人は、それまで以上に金を持つようになりました。しかも、銀行から借りる金の利子が低い時代です。価格が上がった土地や株を元にして銀行から金を借り、土地や株を新たに買いました。この繰り返しで収入を増やせたのです。



財産のある会社も金持ちになり、アメリカ人の誇りであった映画会社を買いました。有名なビルも買いました。ゴッホなどの有名な画家の絵も買いました。日本人は当時、自信に満ちていました。

しかし、それは、本当の経済力ではありません。やがて泡のように消えてしまうことから、それは**バブル経済**と呼ばれるようになりました。

関連事項

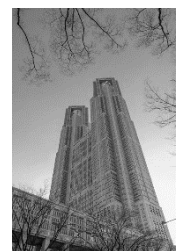
■ 国産高級車

1990年前後になると、それまでの自動車よりも高級な車種が国内自動車メーカーから発売されるようになります。一部の人しか買えなかった大きな高級車を多くの人々がもつようになり、新聞やテレビのニュースでも報道されました。あまりにも急な時代の変化に、日本人自身が驚きました。



■ 東京都庁舎

1990年、**東京都庁舎**が新しい高層ビルになって新宿に完成しました。それまで有楽町にあった庁舎が古くなり、建て替えたのです。非常に豪華な建築物であったため、税金の無駄遣いという批判がありました。しかし、東京のシンボルとして誇りを持つ人もいました。



■ ジュリアナ東京

1991年、東京のウォーターフロントに2000人を収容できる大きなディスコ「**ジュリアナ東京**」が開業しました。^{せんす}扇子を持って踊るスタイルが流行し、多くの人でにぎわいました。バブル経済の最後のエピソードとして、今日も語り継がれています。



第124代昭和天皇は、64年間にわたってその地位を守り、87歳で亡くなりました。日本という国を一つにまとめた権威者です。また、国民と苦楽を共にした日本国の象徴でもあります。葬儀には、世界の国々から多くの代表者などが訪れました。

国際友好親善に尽す昭和天皇



1989年（昭和64年）
1月7日、**昭和天皇**
が亡くなりました。
これを、**ほうぎょ**^{ほうぎょ}**崩御***と言

います。

昭和天皇は1921年、25歳の若さで皇位に就き、辛い時代も日本国民と共に乗り越えてきました。太平洋戦争後、その地位は日本国憲法によって「日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」（第一条）と規定されました。したがって、天皇自身が政治を行うことはなくなりました。しかし、憲法に定められた中で、世界の平和に努め、人々と触れ合いました。その姿は、多くの国民の記憶に残っています。また、生物学の研究で深い知識を持ち、植物に関する本も書いています。

天皇の葬儀を「^{たいそう}^{れい}大喪の礼」と言います。昭和天皇の場合、2月に主な儀式が行われ、国内は言うまでもなく、世界164ヶ国および国際機関の元首や代表が参列しました。

【注】「崩御」は、天皇やその妃である皇后など、特別な人が亡くなった際に用いられる表現です。

関連事項

■ 田植えをする昭和天皇

米の文化は2000～3000年前頃、中国南部や東南アジアから日本に伝わりました。この文化と共に、日本は発展してきたのです。天皇は古来、この米による人々の幸福を神に感謝し、祈りを捧げてきました。皇居では毎年、**天皇が田植えや収穫**を行い、その新米を神に捧げます。



■ 広島を訪問する昭和天皇

昭和天皇は、全国各地を回り、その暮しぶりを見てきました。1947年、原爆を投下された**広島を訪れ**、人々がまだ貧困にあえぐ中、その苦勞をねぎらいました。そして、世界の平和に尽す決意を表明しました。



■ 第125代天皇即位

昭和天皇崩御により、皇太子が**第125代天皇に即位**しました。それに伴い、多くの伝統ある儀式が1年間にわたって行われました。その主な儀式には、海外からも多くの王族や元首などが集まり、日本国民と共に祝いました。



クール・ジャパンとは、海外の人にも評価される日本文化を言います。それは、伝統文化から現代文化まであり、日本人の自己満足で終わることがなく、異なる文化で育った人も喜べるような工夫も重ねられています。

食・自然・伝統



2013年、**和食**がユネスコ (UNESCO) の無形文化遺産*に登録されました。

和食は、日本に古くから伝わる食の文化です。その主な特徴は、日本の四季(春夏秋冬)の各季節に合った新鮮な食材を用いることです。そして、日本は産地が多いため、海・山・川・畑などでとれた食材を用い、各々の地域に合せた調理がなされることも挙げられます。

和食は、米をはじめとし、味噌・納豆・豆腐など、アジア各地から伝わったものも多くあり、それらを採り入れることで、より豊かになってきました。

また、どのような食べ物も一つの命です。その命をいただくことに感謝し、出来る限り無駄のないよう、食べられる部分のほとんど全てを食材にしてきました。

さらに、腹が苦しくなるほど食べ過ぎない「はらはちぶ腹八分」という考え方も大切な文化です。

【注】無形文化遺産は、建築物などの有形文化財を保護する目的の「世界遺産」に対し、民族文化財・口承伝統などの無形文化財を保護する目的のものです。ユネスコ「無形文化遺産の保護に関する条約」第2条では、「慣習、描写、表現、知識及び技術並びにそれらに関連する器具、物品、加工品及び文化的空間であって、社会、集団及び場合によっては個人が自己の文化遺産の一部として認めるもの」と定義されています。

関連事項

■ アニメ

アニメは、日本の代表的な文化の一つです。「アニメ」という言葉が「ANIME」として世界中で言われるほど、日本の作品が多くで国で楽しまれています。それは国内でも同様です。好きな作品によってその人の世代が判るほど、親しまれてきました。



■ 職人

日本では、**職人**が大切にされています。建築・庭園・家具・料理・陶磁器・刃物など、様々な分野で活躍しています。今日、海外で働く職人も少なくありません。各々の仕事に誇り持ち、伝統を受け継ぎながら、新しい技術の開発にも努めています。



■ おもてなし

日本文化の一つに「おもてなし」があります。2020年オリンピックを東京で開くためのアピール・ポイントにし、有名になりました。客にすばらしい経験を提供するための、理想的な心情や行動などを表した言葉です。和室に客を迎えたとき、正座しておじぎをするのも「おもてなし」の表現です。



1960年代の終りから1970年代にかけ、団塊の世代は青春時代を過していました。様々な音楽が日本にあふれている頃です。その中でも、ビートルズのブームは長く続きました。西洋音楽の華やかさに、多くの人があこがれていた時代です。

ビートルズ来日



羽田空港に降り立ってファンに手を振るビートルズ。

1966年、**ビートルズ**(The Beatles) が初めて日本でコンサートを行いました。世界中で人気のロック・グループです。彼らが日本の服であるはっぴを着て飛行機から降りた様子は、ニュースで大きく報道されました。トラブルが起これないよう、多くの警察官が空港の警備に当たったほどです。この時、団塊の世代は、高校生や大学生で、若い心でこの新しい時代を感じていました。

それ以前に来日してすでに多くのファンがいたベンチャーズ(The Ventures) は、エレキギターを使った音楽を日本に広めました。これに対し、ビートルズは、ロック・ミュージックを日本に広めたと言えます。その後、様々な西洋音楽が日本に紹介され、ブームになりました。

その一方で、国内のミュージシャンは、日本の音楽である**演歌**の他、西洋音楽の影響を受けた**フォークソング**などを歌っていました。また、**グループ・サウンズ**と呼ばれるポップスが、1960年代の終り頃から流行してきました。個性の異なる様々な音楽が注目された時代です。



1964年にデビューして高い実力が評価され、その後も長年にわたってヒットを続けた演歌歌手・都はるみ。



フォークソングの流行により、新しく登場したエレキギターではなく、伝統的なアコースティックギターをつかうミュージシャンがふえました。



グループ・サウンズが流行したのち、自分たちでもバンドをつくりたいと考える人々が増え、日本のポップス界には多くのミュージシャンが登場しました。

高度経済成長によって日本人の生活が豊かになり、おしゃれを楽しむ人も多くなってきました。そのような中、世界中で流行したミニスカートが日本にも紹介され、新しいものを好む若い女性に広まりました。

ミニスカートの流行



世界中でミニスカートが流行する中、その細く長い脚が女性のあこがれの的になった「ミニの女王」ツイッギー。

1960年代の終り頃、若い女性の間で**ミニスカート**が流行しました。そのきっかけになったのは、イギリス人モデルで、ミニスカートをはく**ツイッギー**(Twiggy)の来日(1967年)です。

ミニスカートは、当初はテレビCMなどに登場して人気を博し、やがて日本の歌手や女優も身に着けるようになりました。そして、そのような姿をテレビや雑誌などで見た若い女性の間で、あこがれを持って広まりました。

また、当時は、日本の女性が自分の考えを主張するようになった時代でもあります。そして、彼女らは、ファッションでも自分を主張するようになりました。ミニスカートだけでなく、シャツ・ジャケット・カバンなどの色も華やかになってきます。その後、スカートは長くなったり短くなったりすることを繰り返しました。

日本では今日、制服にもミニスカートを採り入れている高等学校もあります。



バスガイドの制服。少し控えめに見えますが、当時は画期的でした。



繁華街を歩くミニスカートの女性。当初は珍しさが注目されましたが、やがて日常の風景になりました。



ミニスカートが流行しても、成人式などの特別な日には、多くの女性が日本の伝統衣装である着物を着ました。

ジーンズの流行は、日本人にとって、ファッション革命と言える出来事でした。街に出る時はアイロンをかけたズボンをはいてジャケットを着るという古い考え方が、若者の間で薄れたのです。形式にとらわれない自由なファッションが受け入れられるようになりました。

ジーンズがおしゃれ



長髪にジーンズというファッションは、伝統的な文化に対する反抗の意味もあり、若い世代の特権でもありました。

1970年頃、都会に住む団塊の世代の間で、**ジーンズ** (jeans) が流行しました。それは元来、肉体労働の際の作業用パンツを、アメリカでカジュアルなファッションに変えたものです。そのため、ジーンズは、当時の日本において、自由の^{シンボル}象徴と見なされました。しかも、それがおしゃれであったことも、若者をひきつけました。また、ジーンズは、クリーニング店に出さずに自分で洗濯できるため、経済的です。そこで、まず学生などの若い男性の間で広まり、やがて女性もはくようになりました。

ジーンズは当初、アメリカ製のリーバイス(Levi's)が高価であったため、古着が買われたりしていました。しかし、その後、日本製ジーンズも次第に品質がよくなってきます。エドウィン(EDWIN)・ビッグジョン(BIG JOHN)・ボブソン(BOBSON)などの低価格の日本ブランドも好まれるようになります。

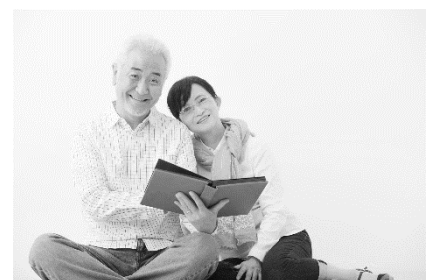
また、ジーンズは当時、(ジーン・パンツから)「ジーパン」とも呼ばれました。そして、今日、普段着のファッションとして、あらゆる世代に好まれています。



裾の広いジーンズは、現在「ベルボトム」と言いますが、当時は「ラッパズボン」と呼ばれ、大流行しました。



ジーンズはおしゃれというイメージが広がり、同じ生地の上着も流行しました。



団塊世代は、年齢を重ねてもジーンズを好み、その中心は男性ですが、夫婦共にジーンズ愛好者という例も珍しくありません。

自動車は、日本では1950年代から広まり始めました。当初は小さな車に家族全員が乗るというスタイルでした。しかし、1970年頃になると、それが変わり始めます。家族を持たない若者も、自分の自動車を買うようになったのです。

個性的マイカーの時代



第17回東京モーターショー(1970年)に展示されたトヨタセリカ。その華やかな外観が若者の人気を博しました。

1969年、東京都と愛知県名古屋市の近辺を結ぶ東名高速道路が出来ました。これにより、自動車での遠距離の移動が便利になりました。それに伴い、あまりお金のない若者も**自分の自動車**を持つ**マイカー(自家用車)**ブームが起こります。車種も増え、若者の好みに合せた様々な自動車が発売されるようになりました。

例えば、トヨタ自動車が1970年に発売した自動車のキャッチフレーズは、「恋はセリカで。」(セリカ)や「気になる男の気になる車」(カリーナ)などです。つまり、未婚の男性を対象にしていました。その前年に発売された日産自動車のスカイライン2000GT-Rは、「羊の皮を被った狼」と言われ、スピード性をアピールして若者をひきつけました。こうして、自動車で街を走ったり旅行に出たりする趣味を「ドライブ」と呼ぶようになり、レジャーの種類も多様になりました。また、移動の際に鉄道を好む人と自動車を好む人に分れたのも、この時代の特徴です。



最高速度200km/hの性能を誇った日産自動車のスカイライン2000GT-Rは、スピード好きの若者のあこがれでした。



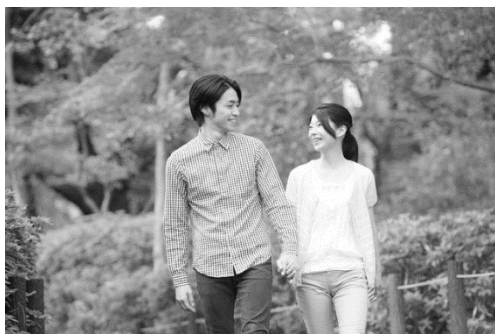
友人を誘ってドライブを楽しむ若者。鉄道が通っていない所も自由に行けるだけでなく、人数が多ければ割り勘で移動の費用も安く済みました。



東名高速道路から見える富士山。高速道路での移動は、一般道路より速いだけでなく、景色を眺めながら走れる楽しみもあります。

1970年代になると、日本の家族のあり方が徐々に変わり始めます。それまでは、父が家長として一番に尊敬されるべき存在で、母や子は父に従うという関係が普通でした。しかし、団塊世代は、友人同士のような家族関係を目指します。それは、「ニューファミリー」と呼ばれました。

新しい家族のあり方



1970年代、団塊世代が結婚するようになると、若い夫婦が手をつないで散歩したり公園などでくつろいだりする光景が見られるようになりました。

ニューファミリー(new family ※和製英語) は、「**新しい家族**」を意味します。その特徴は、家族内で夫婦や親子の上下関係が薄れ、友人同士のような関係になったことです。また、仕事を一番に重んじた旧世代と異なり、家族と仕事の両方を大切にしようとなったことも、その特徴です。

かつての日本では、妻は、夫の横に並んで歩くことは珍しく、夫の少し後を歩きました。

そのように男性を優先することで、家庭を平和に保っていたのです。男性も、それに応えて家庭を守りました。しかし、団塊世代は、西洋の「平等」という考え方を取り入れることで、新しい平和な家庭を創り出そうとしました。こうして、夫婦が手をつないで歩くようになり、親が子の意見に耳を傾けるようにもなりました。

のちに、結婚後も働き続ける女性が次第に増え、掃除・炊事・洗濯などの家事も夫婦で行うようになります。



料理教室などの習い事も親子で一緒に行くようになります。このような仲のよい親子について「友達親子」という言葉も生れました。



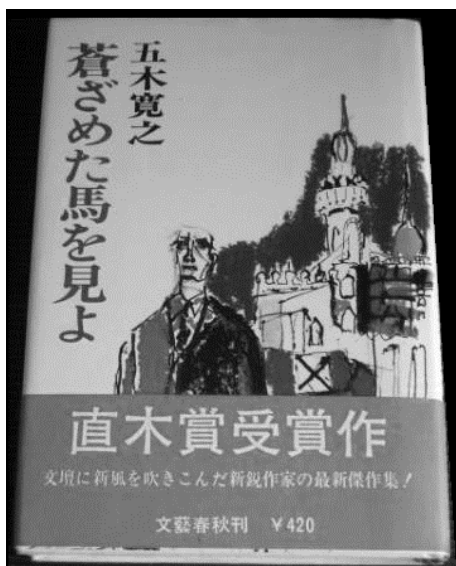
団塊世代には、年齢を重ねた現在も、仲よく手をつなぐ夫婦が少なくありません。かつての日本では考えられない光景ですが、昨今はほほえましいとさえ言えます。



出産後も働く母親が増えると、父親も育児に加わるようになります。時に赤ちゃんのおむつを替えたり子守りをしたりすることも、父親の役目になりました。

他の世代に比べ、団塊世代には、自分と同じ年齢の人が数多くいます。そのため、団塊世代は、出版社にとって大切な読者です。子供の頃から、自分の好む本や雑誌が豊富にそろっていました。特に小説やコミックは、その代表的な分野です。

大衆文化の時代



1966年、大衆小説を対象にした直木賞を受賞した五木寛之『蒼ざめた馬を見よ』。五木はその後、人気作家になりました。

1960年代頃から、一般の人々も広く親しみやすい文化が流行し始めました。それを、**大衆文化**（ポップカルチャー、マスカルチャー）と言います。

大衆文化が広まった理由の一つは、高等学校への進学率が上がったことです。1950年に42%であった進学率は、1965年に70%になり、その後も上がり続けました。その中に、難しい本は読まないが、わかりやすい本であれば読みたいという人が多くいました。そこで、出版社は、楽しんで読める

小説などの刊行を増やすようになります。また、

小学生の頃から**コミック**（^{まんが}漫画）を読んできた世

代であるため、青年も関心を持てるような質の高い内容のコミックが出版されるようになります。

こうして、日本では、小説がわかり易くなり、コミックのレベルが上がるという出版文化が出来上がりました。特に他国より深い内容を持つ日本のコミックは、海外で「MANGA」とも呼ばれます。コミック(MANGA)は今日、世界中に多くのファンを持つようになりました。



ベストセラー作家として有名な村上春樹は、1949年生れの団塊世代で、深い内容をわかり易く表現できる作家です。



1964年、青年向け漫画雑誌として創刊された『ガロ』。当時は「コミック」でなく、「漫画」と呼びました。



子供から大人まで多くのファンを持つ漫画家・池田理代子は、1947年生れの団塊世代で、代表作『ベルサイユのばら』は1500万部以上を売上げました。

高度経済成長によって収入が増えたことで、人々は、様々な趣味や娯楽にも時間を使うようになりました。そのため、生活はゆっくりとしたものから忙しいものになり、人々は「早さ」と「便利」を追求するようになります。その代表例がファーストフードとコンビニです。

早くて便利がいい



ファミリーレストランの店内風景。家族そろって食事におとずれることは楽しいイベントであり、きずなを深める意味もあります。

団塊世代が社会人になった1970年代、華やかな飲食店で食事をする人が増えてきました。楽しみながら食事をするようになったのです。そのような中、子供がいる家族も入り易い**ファミリーレストラン**が数多く開店しました。簡単な調理で完成するように準備しているため、料理が早く出てきます。しかも、価格も高くありません。同じ頃に登場したハンバーガーショップは、料理がさらに早く出て

きます。価格もさらに安いため人気になり、全国に広がりました。この種の料理は、「早い」(fast) ということから、**ファーストフード** (fast food) と呼ばれます。また、ベルトコンベアに乗った寿司が店内を循環して出てくる店を「回転寿司」と言い、これも同様の理由で人気になりました。

その一方で、**コンビニエンスストア** (略称「コンビニ」) と呼ばれる小売店も増えてきました。この種の店は、専門店でなく、多様な品種を扱っています。また、家の近所にも多く開店し、年中無休に加えて深夜営業(さらに24時間営業)もあり、いつ行っても利用できる店であるため、非常に便利です。コンビニは今日、様々な企画・キャンペーンやサービスと共に、成長を続けています。



1971年、東京・銀座に開店した「マクドナルド」1号店。アメリカから来たファーストフードの象徴とも言えます。



1958年、大阪に開店した「廻る元禄寿司」1号店。回転寿司は、寿司が目の前を回っているため、座ってすぐに食べられます。



1974年、東京に開店した「セブン-イレブン」1号店。多くの都市では、徒歩5分圏内に1件はコンビニエンスストアがあります。

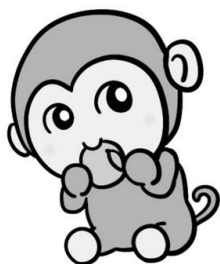
日本は、高度経済成長により、低収入の人が減りました。その結果、裕福層と貧困層の中間に当る「中流」と呼ばれる人が増え、それが国民の中心になりました。多くの人が多くのものを買えるようになりました。このような社会を大衆消費者会と言います。

ワンランク上の生活



1960年代の終り頃から1970年代にかけ、人々は、質のよい商品を求めるようになりました。品質が悪くても安ければよいという考え方でなくなったのです。そして、性能・デザイン・ブランドなどにも関心を持つようになりました。安定した会社に就職していれば給料は毎年上がるため、少し高価でも気に入ったものであれば、客は商品を買います。そこで、企業は、よい品質を目指し、キャラクターをつけるなどして売するための工夫もしました。

続く1980年代になると、人々の給料はさらに増え、中流の人が高級品を買えるようになります。会社勤めの平凡な女性が高級ブランドのバッグを持つことは、珍しくなくなりました。また、^{レジャー}余暇に費やす金額も上がりました。例えば、1984年に開園した東京ディズニーランドでは、家族4人が行くと、1日に5～10万円も使います。金を費やして豊かさを楽しむ時代でした。それは、団塊世代が40歳代になるまで続きます。



日本では「かわいい」イメージのイラストなどに人気があり、動物を愛らしい感じに表現したキャラクターもたくさんあります。



ルイ・ヴィトンのバッグが高級ブランドとして大人気になり、電車に乗ると、何人もの女性がそれを持っている時期がありました。



東京ディズニーランドは、新しい企画やアトラクションを次々に打ち出すため、飽きません。熱狂的なファンも多く、何度も訪れる人々にぎわいます。

団塊世代は、日本が貧しい時代に生れ、年齢を重ねるにつれて生活が豊かになってきました。しかし、モノによって充されるだけでは満足できないことに気がつきます。心の豊かさが大切と考えるようになりました。

心の豊かさが大切



団塊世代の趣味で最も多い旅行。温泉に行っているのんびりと湯につかるのが手軽で人気です。

貧しい時代の日本人は、食べるものがあり、寒さに耐えられる衣服があり、雨をしのげる家があれば、それで満足でした。しかし、生活が豊かになってくると、より便利で高価な物を望むようになります。自分の好みに合った衣服、よりおいしい料理、広くて美しい家を求めました。

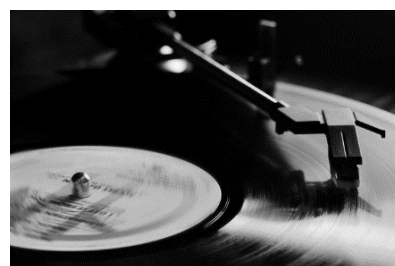
ところが、高級な物が増えて生活が豊かになっても、**心の豊かさ**を満足できません。何かが足りないという気持ちが常にあります。そこで、**生きがい**を大切にする人が多くなりました。仕事をして食べて寝ることの他に、心が豊かになるための活動を始めるのです。その一つが**趣味**を持つことであり、同じ趣味を持つ友人作りでした。団塊世代は、家庭・仕事・地域の人間関係に加え、趣味を通じた人間関係を作り、人生を充実させようと努力したのです。それは、決して金で買えないものでした。



ガーデニングを趣味にする人も多くいます。自然を好む日本人は、狭い庭でも工夫して植物を育て、四季を楽しみます。



読書も趣味の人気ランキングで上位に入ります。喫茶店などでコーヒーを飲みながら本を読む人も珍しくありません。



音楽鑑賞を趣味にする人も多くいます。その中に、オーディオ機器に熱中する人がいて「オーディオ・マニア」と呼ばれたりします。

団塊世代は、自分が必要とされることに喜びを感じ、「身体が動くうちは働きたい」と考える人が少なくありません。収入を得ることだけが目的でなく、家庭・地域・趣味と共に仕事を大切にし、充実した人生を歩みたいと望んでいます。

働くことが好き



小さな工場では、定年後も働けることが少なくない。若い人に仕事を教えたりすることもできるため、能力が高ければ重宝される。

多くの日本人は、働くことを大切に思っています。それは、団塊世代も同様です。2011年のアンケート（総務省「労働力調査」）によれば、65～69歳の36%が働いており、男性だけでも46%です。会社の定年は通例60～65歳ですから、**定年を過ぎても働いている人が多い**ということになります。

ただし、若い時のようにがむしゃらに働くわけではなく、体力に無理のない範囲で比較的のんびりと仕事をしています。このように定年後も働き続けるのは、生活水準を保つため、貯金のため、健康のため、生きがいのためなど、その理由は人によって様々です。

もちろん、仕事を辞め、老後をのんびりと過したいと考える人もいます。しかし、定年を迎えても、あまり喜ばず、少し寂しい気持ちになるのが日本人の特徴です。働くことで自分が社会に必要とされているという思いを得られるからです。



ビル・マンション・寮などの管理人には定年退職者が多くいます。資格を取ると収入が上がることもあるため、やりがいがあります。



飲食店で働く高齢の女性も少なくありません。特に家事をしていた女性は、サービスが上手で、同年齢の平均的な男性より動作も機敏です。



酒と人付き合いが好きな人は、定年後に小さな居酒屋を始めることもあります。自宅の一部を店舗にすると、開業費用が安く済みます。

平成26年度 文部科学省 成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

介護分野の外国人就業者の雇用を促進する養成プログラムの開発と実施

発行日 平成27年 2 月

発行者 学校法人宮崎総合学院

〒880-0802 宮崎県宮崎市別府町4-19

TEL 0985-22-1030 FAX 0985-22-0651

※ 本書の無断転載を禁じます。



学校法人宮崎総合学院